

2022年1月11日

## 経皮的冠動脈インターベンション（PCI）施術時の清潔野助手のタスクシフトについて

日本心血管インターベンション治療学会  
理事長 伊莉 裕二  
コメディカル委員会 委員長 中川 義久

日本心血管インターベンション治療学会は、下記のとおり、命を救う PCI 診療体制を維持するために、PCI 施術時の清潔野の助手を必要に応じてコメディカルが施行できる体制を構築していく立場をとります。

### 記

経皮的冠動脈インターベンション（PCI）は、急性心筋梗塞の最善の治療法として確立されました。発症からできるだけ早く PCI を施行することで死亡率の低下、心不全発症予防ができる素晴らしい治療法であり、心筋梗塞発症時には、すべての国民が遅延なく治療を受けることができる体制を構築し維持することが重要です。しかし、現在でも長時間の搬送が必要な地域もあり、日本全国に診療体制が十分に構築できたと言える状況ではありません。心筋梗塞は、場所や時間を選ばず突然発症します。よって、365日24時間体制でPCIを行える施設が日本全国どこからでもアクセスできるように適切に分布していることが望まれます。冠動脈インターベンション治療には、2名から3名の医療者が清潔野に入ることが必要で、従来すべてが医師によって行われてきました。しかしながら、医師不足により、すべての業務を医師が行うのは困難となってきました。現在、術者はもちろん医師であるものの、学会が行った実態調査ではすでに約4割の施設で、一部の助手業務をコメディカル・スタッフがを行っています。さらに、2024年に医師の働き方改革により、PCIを行う医師の診療体制がさらに手薄になり、心筋梗塞にもかかわらず PCI 治療が適切なタイミングで受けられなくなることもありえます。これは助かる命を助けられないという医療体制の劣化です。

日本心血管インターベンション治療学会は、命を救う PCI 診療体制を維持するために、PCI 清潔野の助手を必要に応じてコメディカル・スタッフが施行できる体制を構築していく立場をとります。そのためには安全性を確立していくことが最も重要です。安全な体制構築のため、すでに各医療機関で独自の教育プログラムを行っていますが、学会としても安全に助手を務められる環境の整備、教育プログラムの提供、新しい情報提供などあらゆる側面から進めてまいります。

以上